

第3学年進路通信 ⑥

H27.10.6

国公立大志望の生徒諸君へ

チェックリスト



- (1)願書の取り寄せ方法を知っている。
- (2)出願期間を知っている。
- (3)前期・中期・後期の全ての日程が同じ出願期間であることを知っている。
- (4)各日程の試験日を知っている。
- (5)中期日程を設定しているのは公立大学であることを知っている。
- (6)公立大学にも前期・後期日程を設定しているところがあることを知っている。
- (7)前期・中期・後期のいずれにも該当しない別日程を設定する大学があることを知っている。
- (8)後期日程よりも前期日程の方が募集人員が多い大学が、一般的であることを知っている。
- (9)前期日程よりも後期日程の方が募集人員が多い大学があることを知っている。
- (10)自校キャンパスの所在地以外に受験会場を設置する大学があることを知っている。
- (11)合格発表日を知っている。
- (12)前期日程の合格大学に入学手続を完了した場合、後期日程を受験しても合格者とはならない。
- (13)受験科目、配点を知っている。
- (14)センター得点率および2次試験の偏差値を知っている。
- (15)赤本などで最近3年分の過去問を解いた。
- (16)キャンパスを見学した。
- (17)最寄りの駅(路線)を知っている。

(1)(2)(3)センター試験の翌日、自己採点をし、その結果が3日後に届きます。それを基に、出願先を最終決定し、全日程を1/25~2/3の期間に出願します。群馬県公立高校入試のように、前期が終了してから後期の出願をするという方式ではありません。ですから、**様々な状況を想定して、複数の出願パターンを準備しておく必要がある**のです。

(5)関東地方では高崎経済大と都留文科大があります。

(7)新潟県立大学と国際教養大学(秋田県)が該当します。

(8)したがって、前期日程に第1志望を持ってくることとなります。

(9)埼玉大学(工)は後期日程の方が多くなっています。

(10)秋田大(国際資源)(理工)、山梨大(工)などは東京での受験が可能です。公立では都留文科大(文)、新潟県立大、釧路公立大、公立はこだて未来大、青森公立大、沖縄県の名桜大(国際)などがあります。秋田県立大はさいたま市での受験が可能です。

出願パターンを考える時、レベルだけでなく、思い切って別な地域を検討することも大切です。その際、どの地域までを許容範囲とするかでしょう。

(11)国立大の合格発表は3/6~3/10のいずれかに行われます。ということは、伊高生の卒業式の後です。私立大に一つも合格しておらず国公立大の合格待ちということになると、不安な気持ちのまま卒業式に臨むということになります。その状況は避けた方がよいと思います。したがって、**私立大受験をスケジュールに組み入れ、少なくとも一つは合格を確保できるよう策を練りましょう。**

(14) **国公立大と私立大を秤にかける場面**が出てきます。国公立大の試験および合格発表日が遅いので、ある程度の私立大の合格を勝ち取ると、そちらに気持ちが傾いていくからです。その時になって対応がぶれないよう、**どのレベルであれば私立大を取るか**について想定しておく必要があります。

また、このように私大に流れる受験生が多いことから、**後期日程の試験は欠席者が多く倍率が思いのほか低くなる傾向があります。最後まで国公立大に執着すれば望みが叶うことがあります。**

センター利用私大の使い方

合格水準は一般入試に比べ、大幅に高くなる傾向があります。合格安全校に出願(事前出願)しておき、合格通知が届けば、**センター試験でマークミスがほぼ無かったことの証明**になります。そうすれば、安心して2次試験に集中できるでしょう。